



子元

子元



十九番上

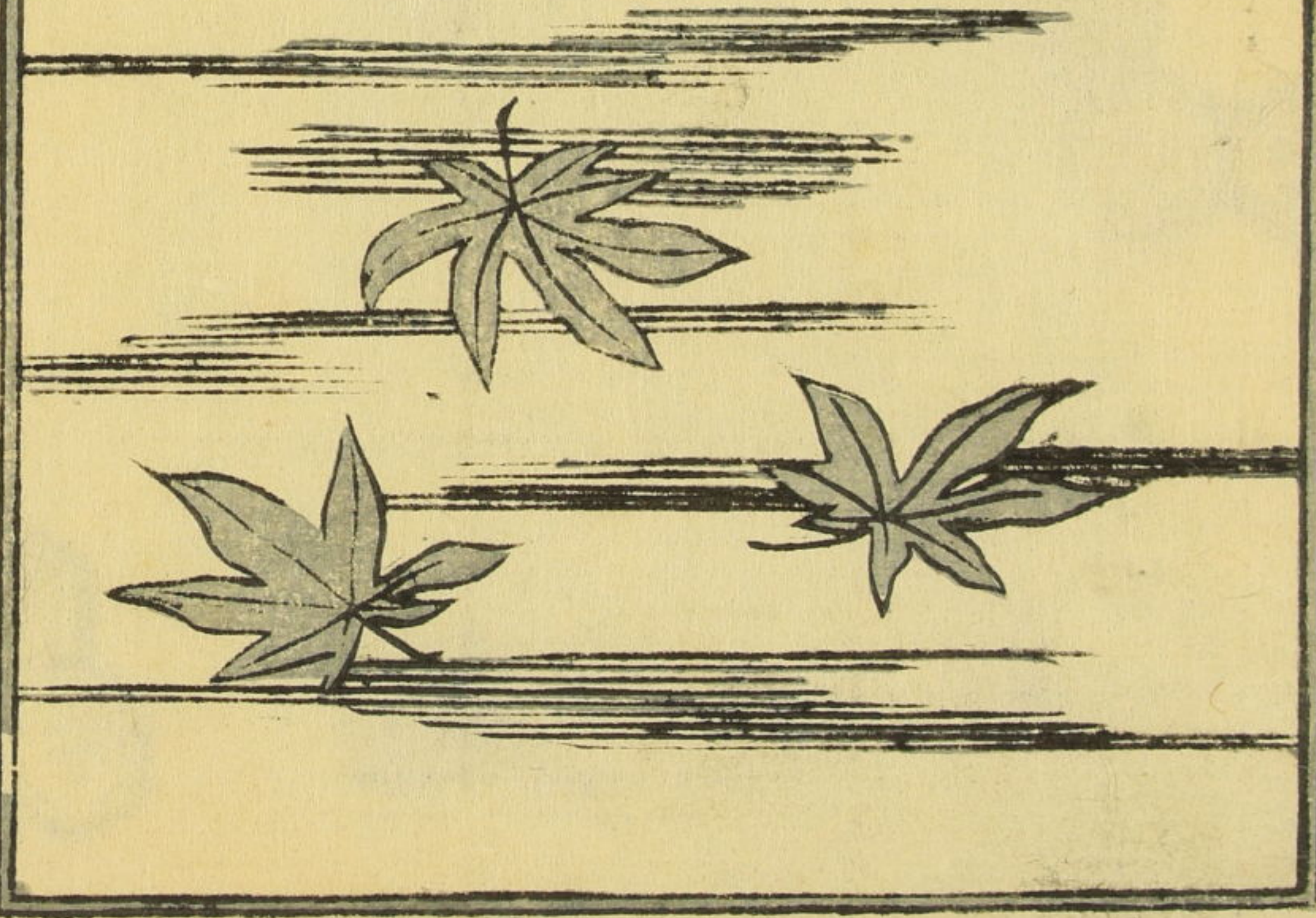
~ 13  
3702  
19



門へ13  
號 3702  
卷 19

為 於 乃 可  
外 傳 保 品 志  
り 記

くわのあまが  
くわのあまが  
あまが



幻日記十九編之叙

劇場へ往て幕の永き

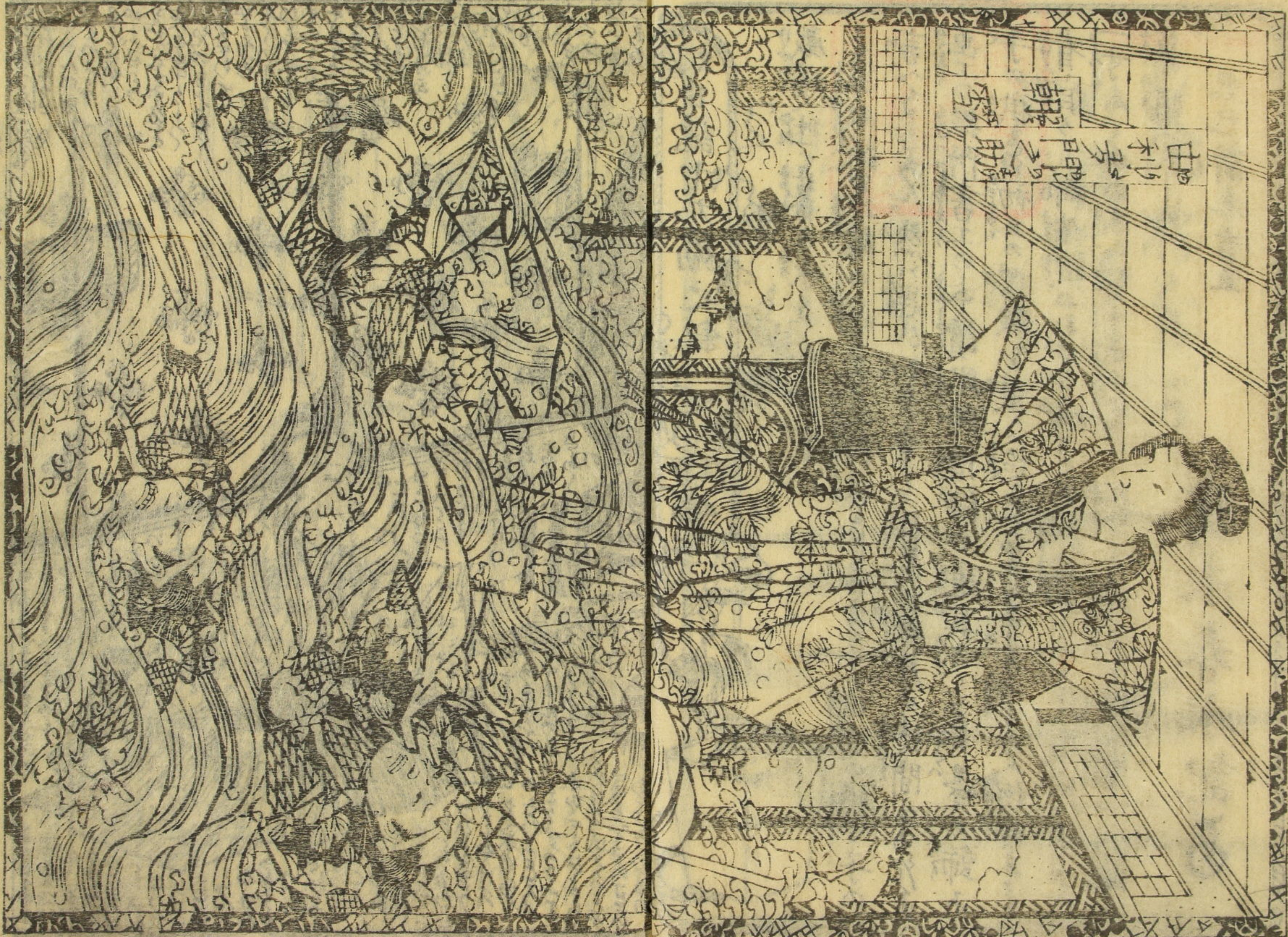


と草双紙の次編の遅き。日取待遠きものありし世間の婦女子の  
言を聞きし。然り思ひ知りあらず。作者の樂屋小透間もまた小  
直工の振附書工の本讀彫師摺師の道具方と舞臺の飾小  
子の掛巻初日の標報を張る迄ある。小日の重る人何時ともし  
看官ら。御催促のお手が鳴る。紅英堂より。て急ぐ。せゆぞ  
一寸と。せの木の替り。小。チヨウ。拍子小序文と綴り。第十九編の  
幕明ら。

巳己新春吉旦

為 永 春 水 記 る





由利是助之朝

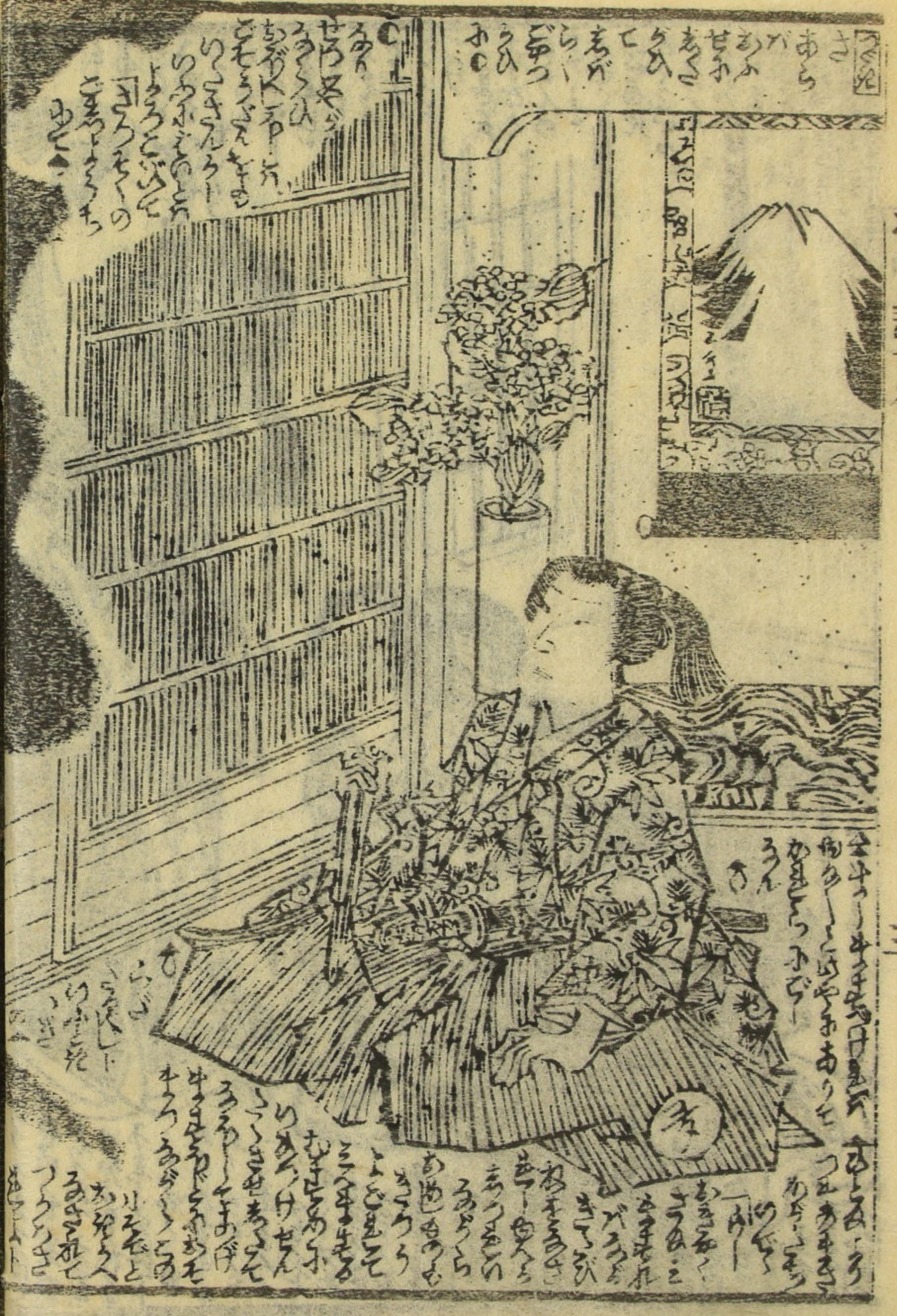




日記

あつちのうらあつち  
しそらうらあつち

あつちのうらあつち  
しそらうらあつち  
あつちのうらあつち  
しそらうらあつち



あつちのうらあつち  
しそらうらあつち

あつちのうらあつち  
しそらうらあつち

あつちのうらあつち  
しそらうらあつち  
あつちのうらあつち  
しそらうらあつち  
あつちのうらあつち  
しそらうらあつち



四月の月

五

四月の月

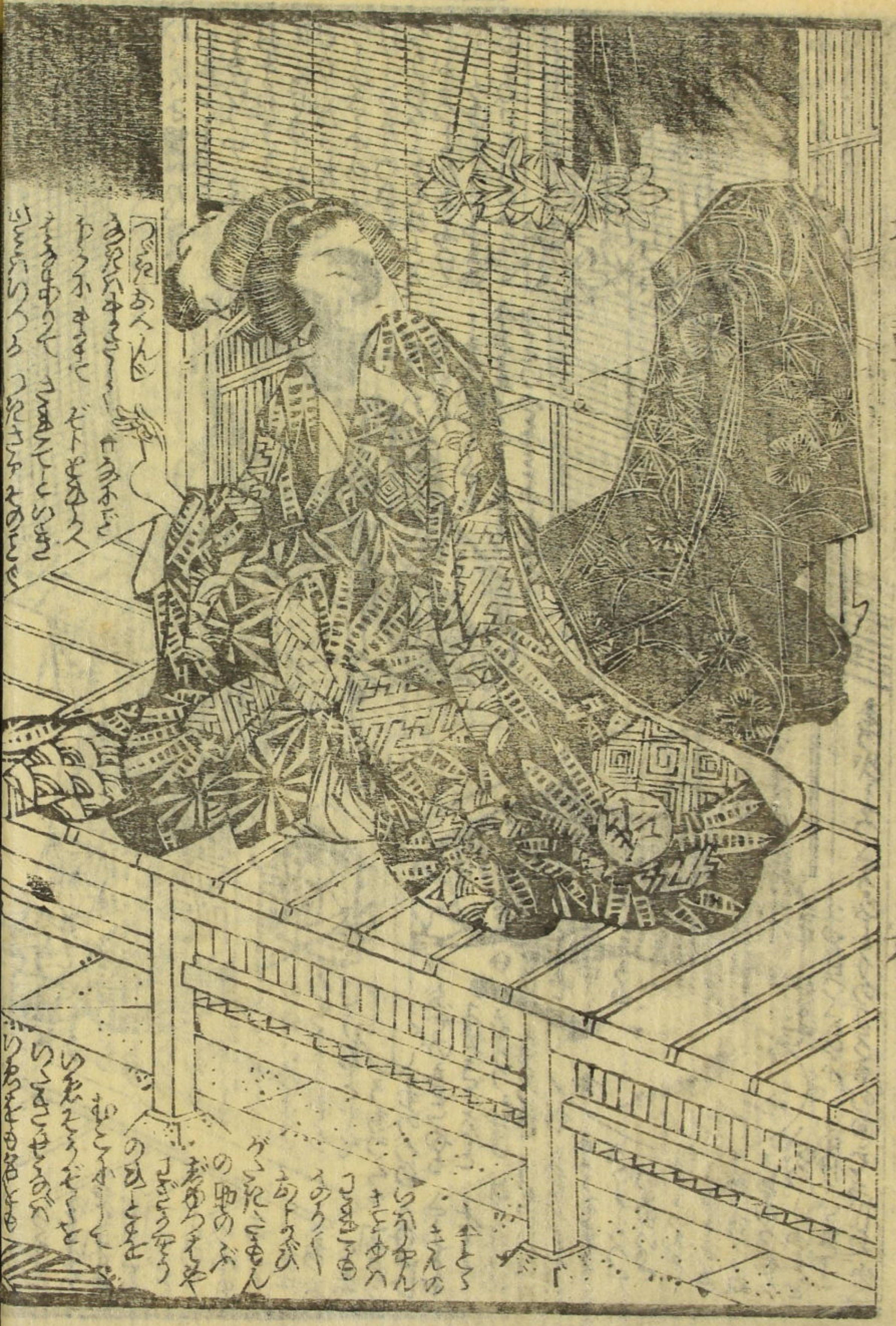
五





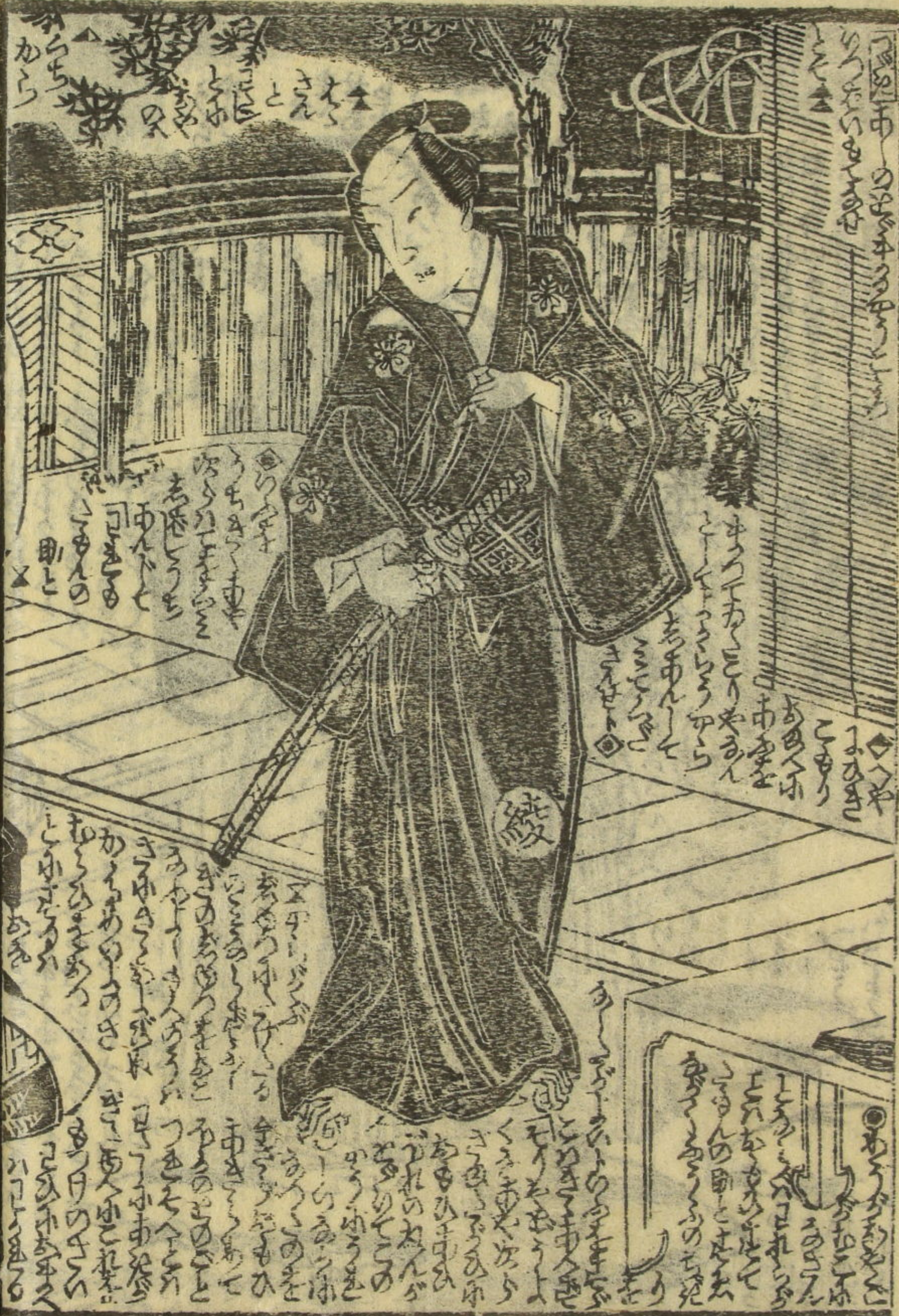
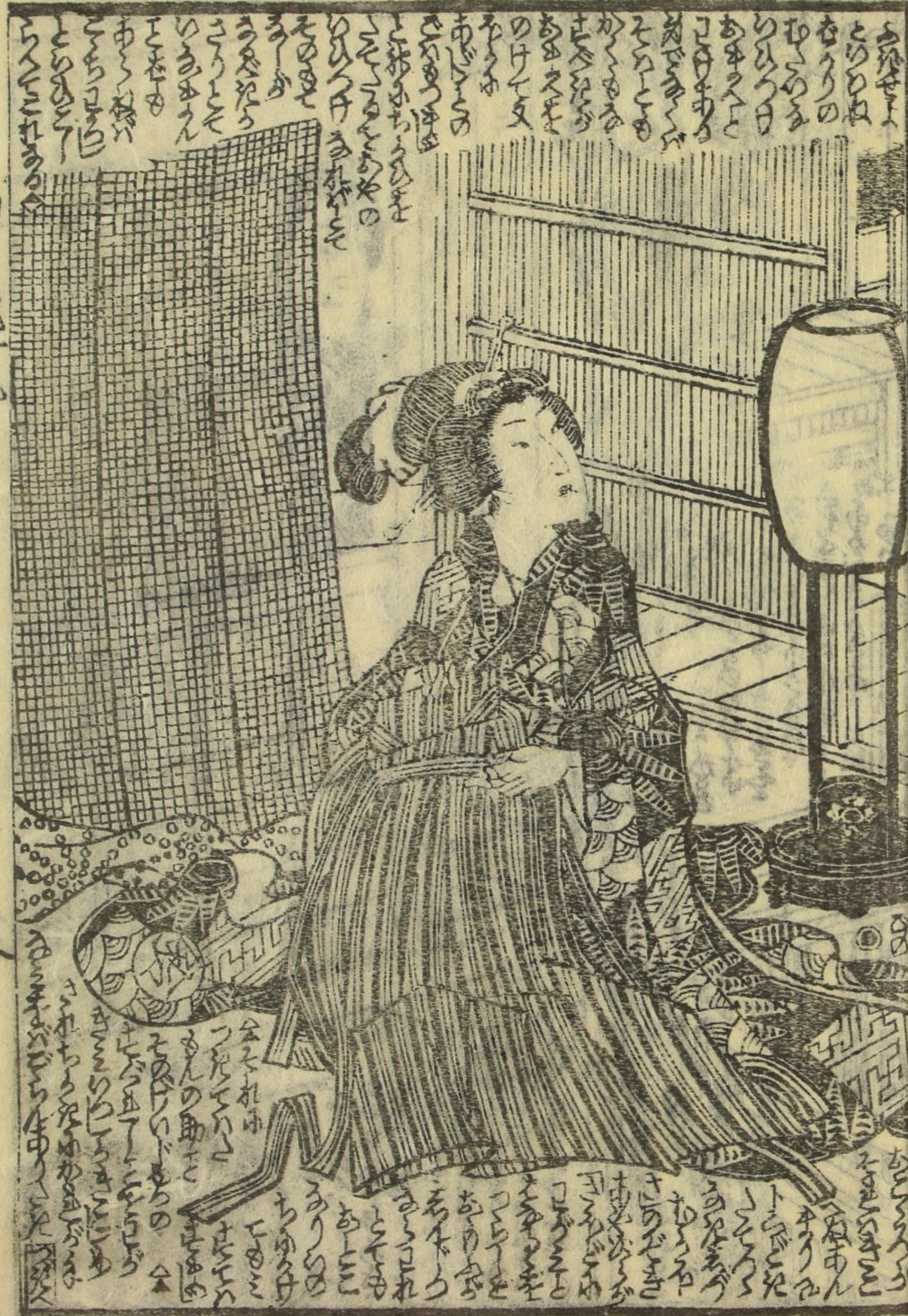
江戸下町

幻明話十九



七











春水作  
國貞画

實母散

さんせんさんご中納言傳馬町東側  
ふしんららるら  
一四のめら  
千葉堂著神製

柳蔭月朝妻

六編道 山々亭有人作  
出板 権朝禮國貞画

藝黃鸝八幡不知

五編道 山々亭有人作  
出板 錦朝樓若希画

阿玉ヶ池柳月形

初編道 山々亭有人作  
追々出板 陽齋豊國画

地本綿繪團扇問屋 紅莢堂 葛吉

